

社団法人 日本経営士会 千葉支部 会報

EMC 千葉

Ever
Management
Consultant
Chiba

発行 (社)日本経営士会 千葉支部 <http://keieishi-chiba.org/>
 支部長 鶴岡義明 〒275-0001 習志野市東習志野3丁目11-15
 編集 事務局 副支部長 鈴木伸一

平成21年12月1日発行

第83号

木々が色づき一枚いちまいと枯葉が散っていきます。11月4日 千葉県会長、北関東支部長を歴任なさいました金子 昭 先生が永眠なさいました。プロコンサルタントとして千葉支部の重鎮として活躍されました先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

懇親会のご案内

懇親会開催のおしらせ

今年最後の懇親会です。みなさまにとって 2009 年はどんな年だったのでしょうか、寒さを吹き飛ばし今年一年を振り返り楽しく語り合しましょう。

みなさんの参加をぜひお待ちしております。

日 時：平成 21 年 12 月 19 日(土) 17:00 より

場 所：居酒屋 天狗 047-425-1268

船橋市本町4丁目1-15 快美壺番館2階

会 費：3,000円



申込先：別途案内は送りいたしません。

12月15日までに、鈴木伸一 会員

Tel : 090 - 5446 - 2808 Fax : 04 - 7133 - 1303まで、最終面の申込書でお申し込みください。(メールでも結構です)多数のご参加をお待ちしております。

1 2 月 度 研 修 会 ご 案 内

日 時 平成 21 年 12 月 19 日(土) 15:00 ~ 16:30

場 所 船橋市中央公民館 第 8 集会室

テーマ 「企業における CSR 経営の重要性 ~ 日本型 CSR の生成と展開 ~」

講 師 露木 美幸 会員 (東京支部)

本年最後の月例研修会は、東京支部所属の会員であります露木美幸氏 (TYKC コンプライアンスコンサルティング代表) に「企業における CSR 経営の重要性」をテーマに御講演をお願いしております。かつてない世界同時不況の中、底を脱したとは言われども未だ苦しむ企業のための日本型 CSR 経営を、分かりやすく解説して頂きます。

年末恒例の「懇親会」も終了後に予定しております。ご多忙とは存じますが、会員の皆様多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

講師 : 露木美幸氏のプロフィール

TYKC コンプライアンスコンサルティング代表

〒1010051 東京都千代田区神田神保町 2-9-1204

TEL : 03-6380-8842 FAX : 03-6380-8843

Mail: tsuyuki@tykc.biz URL : <http://tykc.biz/>

知的財産マネジメントシステム構築、個人情報保護マネジメントシステム構築などのコンプライアンスマネジメントを中心として、中小企業のコンプライアンスマネジメントシステムコンサルティングを行う。また、英米法を中心とした国際法務契約作成、法務関連の翻訳・通訳業務も手がける。著作権法学会所属。個人情報保護管理士。公認内部統制管理士。Japan Privacy Consultant Association 認定プライバシーコンサルタント (CPC)。TRUSTe 認証審査員。大原法律専門学校講師。

< 著書 >

単著 : 知的財産一問一答 (三和書籍 2007)。

共著 : 基礎からの公法入門 - 地方自治法 - (敬文堂 2008)。

翻訳 : 「著作権の将来像」 (ALAI 2005)。

記事ご協力のお願い

記事、投稿をお待ちしております。ご協力お願いいただける方は広報担当 鈴木までお送りください。

TEL : 090 - 5446 2808 FAX : 04 - 7133 - 1303

MAIL : shin_suzuki@nifty.com

全国研究会議つくば大会開催報告

7月25日(土)、26日(日)の両日、茨城県つくば市のつくば国際会議場において、第43回経営士全国研究会議が行われました。詳細については **Management Consultant** 誌上で報告されていますので、皆様もご覧になったのではないかと思います。全国研には共催した千葉支部のスタッフとして多くの支部会員が参加しております。ここでは **Management Consultant** 誌上では語られなかった裏方の苦労についてお話ししたいと思います。

千葉支部の担当は、エキスカッションと論文発表のC会場の進行担当ですが、200名以上の参加者を混乱なく誘導し、時間どおりに進行を行うには事前の準備がものをいいます。準備作業があるスタッフは前日から泊り込んで準備を行っています。

参加者が短時間に集中する会場の受付も支部ごとに7つのブースを用意し混乱を避ける工夫をしています。

つくば国際会議場は、世界的な会議も行われる会場ですから、会場設備は充実しています。特に照明・音響設備はすばらしく。これらの機器は演台脇のブースから操作します。開会前に流す映像もここから操作しています。

演台は自動昇降式でブロックのように自由に組み合わせで上下させることができます。今回は一番広い範囲を演台として利用しています。

茨城といえばガマの油売りです。「2枚が4枚、4枚が8枚、8枚が10と6枚」と掛け声も勇ましく紙を切っていきます。最後はぱぁっと紙ふぶきを散らします。

筑波山コースのエキスカッションも天気がよすぎるぐらいで、汗を流しながら山道を歩きました。女体山山頂からの見晴らしは最高です。西村さんお疲れ様でした。(文 鈴木)



会議・研究会開催報告

支部幹事会

第3回支部幹事会

平成21年6月27日(土) 12:30~15:00

場 所 船橋市 中央公民館

参加者 鶴岡義明、大河内国治、西村 豊、鈴木伸一、山田 一、大塚亜喜雄、中嶋清介、岩野邦久

1. 全国研準備の報告
2. 新研究会立ち上げの報告
3. 本部関係報告
4. 中小企業白書2009年度版の概要

第4回運営委員会

平成21年8月22日(土) 12:30~15:00

場 所 船橋市 中央公民館

参加者 船橋中央公民館 鶴岡義明、大河内国治、西村 豊、鈴木伸一、山田 一、大塚亜喜雄、藤江隆平、岩野邦久

1. 全国研報告について
2. 公開講演会の件
3. 「シリーズ金子塾」の実施について
4. 農業・観光研究会の活動報告
5. 経営者協会名簿への広告掲載の件

第5回運営委員会

平成21年9月26日(土) 13:00~15:00

場 所 船橋市 中央公民館

参加者 鶴岡義明、大河内国治、西村 豊、鈴木伸一、山田 一、林 久雄、大塚亜喜雄、中嶋清介、藤江隆平、岩野邦久

1. 本部関連報告事項
2. 千葉県経営者協会との夕刻研修会報告
3. 千葉県経営者協会 研修部会実施報告

第6回運営委員会

平成21年10月24日(土) 13:00~15:00

場 所 船橋市 中央公民館

参加者 鶴岡義明、大河内国治、西村 豊、鈴木伸一、大塚亜喜雄、岩野邦久、藤江隆平

1. 全国支部長会議報告
2. 本部決定事項について
3. 定款変更のポイントについて
4. 農商工連携事業推進プロジェクト、農業観光研究会について

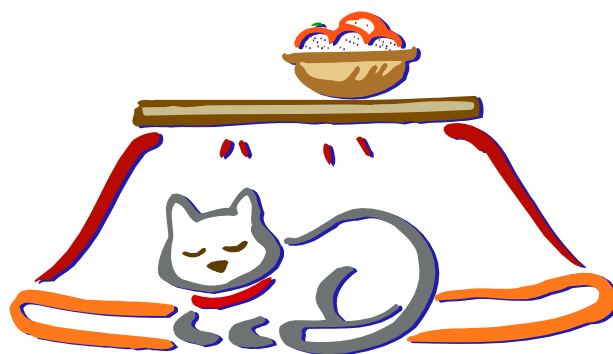
第7回運営委員会

平成21年11月28日(土) 15:00~17:00

場 所 フローラ西船

参加者 鶴岡義明、西村 豊、大河内国治、鈴木伸一、山田 一、林 久雄、大塚亜喜雄、中嶋清介、
藤江隆平

1. 下期計画の見直しについて
2. 公開講演会の件
3. その他



月例研修会

6月度月例研修会

平成21年6月27日(土) 15:00~17:00

場 所 船橋市 中央公民館

テーマ 儲かる農業

講 師 高野充昭 会員

参加者 榎田國男、石塚康生、大河内國治、大島健(東京支部)、大塚亜喜雄、蒲谷公章、佐藤光生、
島川憲夫(神奈川)、鈴木伸一、千葉道生、鶴岡義明、西村豊、原弘行、山田一、
亀山哲(千葉県経営者協会)

日本の食糧自給率は40%とされている。国内では輸入自由化により輸入農産品との価格競争が起きている。特に中国からの輸入品については様々な社会問題を引き起こしている状況だ。また、政府の農業政策として、過剰生産による値崩れを防ぐ為の「減反政策」というものがある。コメを作らなければ補償金が支払われると言う訳だ(秋田県大潟村の例)。こういったかたちで農業が衰退していくのは大変残念なことであ

るが、技術面では以前と比べ、品種改良や、栽培技術の進歩により発達してきており、もはや原始産業とは言えなくなっているのも事実である。

一方、新規就農規制については、相変わらず農地法の規制により、誰でも農地を手に入れることが難しい状況にある。脱サラで農業に転職し成功したという例は幾つか紹介されてはいるが、実際、都会生活に慣れている人が農業をやるということは、大変なことである。こういった中、農業経営基盤強化促進法の改正に伴い、一般企業がリース方式で農地を取得することが可能となった。これにより新規農業参入にはイトーヨーカドー、ワタミ、JR東海、建設土木会社、などが名を挙げている。

農業は事業であるからこそ、儲かる事業に転身していくべきであるというのが持論であるが、その為に「経営におけるやさしい財務分析」をお薦めしている。大手の農業法人は別として、中小の農家では「自分の農家は儲かっているのか？」という疑問について、「収入」と「費用」の具体的実体を連年比較、分解して改善策を見出す。すると、ムダを排除して利益を出すためのアイデアが生まれてくる。

良いもの、旨いものを作らないと消費者は騙せないのが農業であるが、その為には食の変化に対応した「売れるモノ」作りと「販路の確保、拡大」が重要である。その為には、販売管理（顧客別管理表の指導）、販売促進（損して得獲る）を薦めている。販路の拡大についても、市場（イチバ）ばかりではなく直販化（個店、道の駅、アグリハウス等）も考えていく必要がある。そういった基盤が確立されてくると次は、規模の拡大と合理化である。ここでは、設備の増設や機械化などが挙げられるが、必ず付き纏うのが資金調達という問題である。最近、銀行でも農業信用保証保険制度を活用した「農業信用基金協会の保証付き融資制度」の取扱を始めた。農業は、自然条件や経済状況の変化によるリスクが非常に高いことからこういった特殊な制度が導入されている。

このような現状の中、今後安心して取り組める農業を目指すには、やはり「法人化」をお薦めする。個人の財産を法人が買い取って資本金とすることで、相続対策にメリットが生まれる。デメリットとしては給与明細、社員名簿、源泉徴収などが必要となることであるが、必ず税理士の関与を怠らないことが重要である。

千葉支部では、今期「農業・観光研究会」「就業支援研究会」という二つの専門部会を立ち上げた。農業産出額、4,119 億円（平成 19 年）と全国第 2 位の農業県（1 位は北海道の 9,809 億円で突出している）あるい



は東京ディズニーランド、成田空港、九十九里等を控えた観光立県千葉など、県の地域特性を生かした事業活性化に貢献することを目的とする。その地域活力は雇用を生み、また新たなビジネスを生むことになる。このような活動が地域から社会貢献活動と認識され、日本経営士会千葉支部の知名度向上につながることを期待する。活動はまだ始めたばかりであるが、現在近隣支部との協力等も含めメンバーを募集中である。

8 月度月例研修会

平成 21 年 8 月 22 日(土) 15:00 ~ 17:00

場 所 船橋市 中央公民館

テーマ 商社における基幹システム導入

講 師 島川憲夫 会員(神奈川県)

参加者 井形元彦(東京支部) 岩野邦久、大塚亜喜雄、蒲谷公章、上條靖芳、鈴木伸一、高野充昭、鶴岡義明、西村豊、松下良子(神奈川県)、山田一

今回は、南関東支部神奈川県所属で、産業用機械の総合商社に勤務される企業内経営士の島川会員より、同企業の基幹システム導入事例をお聞きする機会を得た。島川会員は入会当時より勤務先同僚との関係で千葉支部との交流が深く、今回月例研修会での講師のお願いをすることになった。テーマは「商社における基幹システム導入」という事例報告である。

一般的に、商社、卸売業はメーカーより製品を仕入れ、得意先に販売するという業務スタイルであるが、その業務は大変複雑であると言われている。そういった中で商流、物流、金流をコントロールするには販売における会計システムが大変重要な役割を果たすことは言うまでもない。しかし、企業としては仕入・在庫の適正化や、業務効率化によるコスト削減。また、情報の早期共有化などによる競争力の強化で高収益体質に転換していかなければならない。これを実現する為には、基幹システムの刷新により情報基盤の整備を実現することが大変重要な意味を持つことになる。

同商社では、1997年からクライアントサーバーシステムを導入、2002年頃にはハードウェアの入れ替えに伴い、低コストで、パフォーマンスの高いシンクライアントシステムの導入を行なった。それまで、本社と全国の支店にサーバーを設置していたものを、本社一極集中配置に転換したと言う。シンクライアントとはハードディスクを持たないユーザー側の端末機のこと、故障がほとんど無く、保守管理に掛かる手間や時間コストを大幅に削減出来る。また、情報漏洩やウィルス感染の心配も無い。1997年のC/S導入時と比べTCO(初期投資+運用コスト)は半分に削減できたと言われている。

また、同時期にスタートした「業務改革プロジェクト」では、「部分最適から全体最適へ」をキーワードに、「営業支援システム(SFA)構築」「会計システム再構築」を目標とし、情報共有(ナレッジの共有化)、業務標準化、コスト削減、に向けて活動を開始。会計システムにおいては、見積書作成から入金支払処理まで全てが一元管理出来、担当営業の売上実績、過去の実績まで関連して検索できる仕組み作りを実施。2007年に一応のプロジェクト終了を迎えた。

今後は個人的なメリットよりも企業にとって必要なことを優先した考え方で、内部統制や会計基準のコンバージェンス等に対応した業務スタイルへとさらなる変革するが重要であると言える。



9 月度月例研修会

平成 21 年 9 月 26 日(土) 15:00 ~ 17:00

場 所 船橋市 中央公民館

テーマ ある S E の四方山話し

講 師：上條靖芳 会員

参加者 大塚亜喜雄、蒲谷公章、島川憲夫、鈴木伸一、鶴岡義明、西村豊、林久雄、藤江隆平、山田一

千葉支部内でも相次いで会員の退会が続く中、貴重な新入会員の登場です。

2 日前 (H21 年 9 月 24 日) に経営士の合格通知をもらったと言う上條会員のご紹介を致します。

既に、前月 (8 月) の月例研修会にも出席、農業・観光研究会の会員として 7・8 月と研究会の会合にも 2 回程出席され、大変、意欲的に活動を開始されております。支部では、恒例の新入会員報告会的一幕として月例研修会の場を提供させて頂きました。本日、上條会員は経営士として初めて講演の壇上に立つ記念すべき日でもあります。

上條会員は、1956 年 5 月生まれ、長野県松本市出身の 53 歳、奥様、中学 3 年生のお嬢様と 3 人で現在千葉県柏市にお住まいであります。キャリアは事務機メーカーのフィールドエンジニアから、プログラマー、システムエンジニア、データベース技術者、システムコンサルタントとして 28 年間活躍され、その後、経営士を目指し経営士養成塾に参加、卒業後面接試験をパスし見事経営士の資格を手に入れられました。専門は、ご本人のキャリアから「情報」ということですが、IT 技術者というのは、大方がソフトウェア会社に所属するか、派遣・委託等でプロジェクトチームに参画する等の仕事が多く、個人で独立してその道を極めるのは、今の時代、なかなか困難な道であります。そこで生きてくるのが「経営士」であると上條さんは考えられたのでしょうか。

本日のお話の中に、情報システムの開発手法の紹介で、「ウォーターフォール方式」と「スパイラル方式」という説明がありました。この内、後者は要件定義から設計、テストまで何度も繰り返し徐々に仕上げている手法です。これまでは、自分の持つ技術を最大限発揮して、お客様の要求を最低限満たすことで良かった訳ですが、これからは、様々な制約の中、真の課題を見極め、有効的な解決策を提供し、なおかつそれを推進、フォローしていく事がコンサルタントとしての仕事であります。そして、これはまさに「終わりのないスパイラル方式」であると言えます。

困ったときは「組織」が応援する、それが日本経営士会としての強みだと考えます。中小企業を相手に、IT 活用の指導が出来る経営コンサルタントとして今後のご活躍を期待したいものであります。



10月度月例研修会

平成21年10月24日(土) 15:00~17:00

場 所 船橋市 中央公民館

テーマ 中国社会の表と裏

講 師：鈴木伸一 会員

参加者 大塚亜喜雄、上條靖芳、小塚彦明、鶴岡義明、西村豊、前野彰吾（栃木県会）

現在、中国は好調な経済に支えられ、貿易収支黒字額(2008年 2955億ドル)は世界第1位、GDPは2007年まで5年連続2桁増加を続け、2008年には4兆4010億ドルで世界第3位、2009年には遂に日本を抜いて世界第2位までになる。人口は13億4600万人で世界1位、面積は9,596,960平方キロメートルで世界3位、日本の26倍もの国である。中国共産党の存在で共産国というイメージであるが、最近では国営企業も15%程度に減り、すっかり自由主義の国になってしまったようである。

しかしながら経済の実体は、都市部集中型であり農村部との所得格差は5、6倍もある。失業率は都市部労働人口(1億9千万人)対象では4.2%であるが農村部労働人口(4億9千万人)を含めると20%弱もあると言われている。又、教育水準も低く、雇用のミスマッチが起きていることも原因の一つと考えられる。しかし、外資系企業での高度技術者やマネージャなどはかなりの高給取りだそうである。

裏の面では、治安の悪さ、環境破壊の問題、食品衛生上の問題など、悪いイメージの情報ばかりが耳に入る。最近の話題では、毒入り餃子事件、毒粉ミルク事件など記憶に新しいものであるが、今年6月には13年続いた「食品衛生法」に代わり、「食品安全法」が施行され、賞味期限の表示が義務付けられたということを知っても、何とも次元の低い話しである。

また、1979年に導入された一人っ子政策の功罪として、30年も経った今高齢化が急速に進む中での介護問題、男女比の偏りによる男余り、年金問題、医療保障問題と様々な問題を生み出している。しかし、この一人っ子政策により4億人の人口抑制が出来たと言われており、もし、この政策が実施されなければ、今の人口は17億人にも上ることになる。

民族構成は漢族が94%で残りは55の少数民族が存在する国であるが、中国でのビジネスにおいては、出身地域が様々であったり、地縁や学閥を重視する国民性等を予め意識しながら行うことが必要であると言われる。また役所関係の人脈をうまく活用することも成功の秘訣だそうである。今中国では、日本に交流を求める傾向が非常に高まっていると言われている。お互いに利益、メリットがあれば十分にビジネスは成り立つし、このようなビジネスチャンスを提供できるコンサルタントも、ますます活躍の場が広がると思われる。



コンサルティング研究会

第3回

平成 21 年 6 月 14 日(日) 15:00~18:00

場 所 近江技術士事務所

テーマ 地域中小企業の経営改善支援セミナー開催について

参加者 近江堅一、林 堯夫、大久保 篤、岩野邦久、近江良和、若月英司

1. コンサルタントとしての営業活動・工場活動のポイントについて

- ・コンサルタントは中小メーカーの経営者に対して、この不況でも乗り切る方策があることを力説しなければならない。
- ・中小メーカーの経営者に対して訴える場合、存在的とらえ方（客観的とらえ方）よりも存在論的とらえ方（主観的とらえ方）をしたほうが素直に受け入れられる。

2. 各講師の講演内容についての指導

市川商工会議所経営講演会

平成 21 年 6 月 17 日(水) 13:30~17:30

場 所 市川商工会議所大ホール

共 催 市川商工会議所・(社)日本経営士会 千葉支部

参加者

	参加者名
参加者	27社33名
市川商工会議所	登坂幸二（常務理事） 所 眞木宙（中小企業相談所長） 湯浅英正（中小企業相談所業務課長） 高島 勝（中小企業相談所指導課長） 黒田伸彦（中小企業相談所業務課係長）
(社)日本経営士会 千葉支部	鶴岡義明（支部長） コンサルティング研究会：近江堅一（顧問） 岩野邦久、林 堯夫、大久保 篤、河井成夫、千葉道生、近江良和、若月英司

市川商工会議所 工業部会長 山口昌宏様より挨拶、次いで鶴岡義明支部長より挨拶の後、市川商工会議所 中小企業相談所業務課長 湯浅英正様の司会により、次のテーマで当方の4名の講師が、途中10分間の休憩を挟み、16:30まで講演した。

テーマ：業績悪化からの脱出に挑戦『経営変革4つの武器』

- 中小企業に適した生の顧客情報で、営業力の強化を……………(講師 林 堯夫)
- 生産性の飛躍的向上と納期の大幅短縮で顧客満足を……………(講師 若月 英司)
- 不況時代の利益増加法 - 間違いを直せば利益は増える……………(講師 大久保 篤)
- リーダーシップと企業に雇用され得る人財……………(講師 岩野 邦久)

現下の経済情勢に鑑み、市川商工会議所様と講演テーマや各講師の講演内容について事前に十分打合せを行った。今回の講演内容が参加者の経営改善に役立つことを願っている。

講演終了後、個別相談会に移り、4社より17:30まで各担当で企業側からの個別相談に対応した。

なお、4社より企業現場における一日無料診断の要請があり、後日、日程調整の上、各企業を訪問し診断することとした。

第4回

平成21年7月12日(日) 16:00~18:00 場 所 近江技術士事務所

テーマ 地域中小企業の経営改善支援セミナー開催について

参加者 近江堅一、林 堯夫、大久保 篤、岩野邦久、千葉道生、近江良和、若月英司

1. 市川商工会議所会員に対する一日無料診断の実施
2. 今後の進め方について協議

第5回

平成21年8月9日(日) 15:00~18:00 場 所 近江技術士事務所

テーマ 地域中小企業の経営改善支援セミナー開催について

参加者 近江堅一、林 堯夫、大久保 篤、岩野邦久、千葉道生、河井成夫、若月英司

1. 市川商工会議所会員に対する一日無料診断結果の報告
2. 今後の進め方について協議

第6回

平成21年9月20日(日) 15:00~18:00 場 所 近江技術士事務所

参加者 近江堅一、鶴岡義明、林 堯夫、大久保 篤、岩野邦久、千葉道生、相馬幹夫、近江良和、若月英司

1. 工業団地協同組合へのアプローチ状況報告
2. 「一日無料診断」の商工会議所会報への掲載について
3. 産業人材づくり支援事業
4. 今後の進め方について協議

第7回

平成 21 年 10 月 25 日(日) 10:00~12:00

場 所 近江技術士事務所

参加者 近江堅一、大久保 篤、岩野邦久、若月英司

1. 工業団地協同組合へのアプローチ状況報告
2. 「一日無料診断」の千葉商工会議所会報への掲載について
3. 中小メーカーの真の活性化について

第8回

平成 21 年 11 月 22 日(日) 15:00~10:00

場 所 近江技術士事務所

参加者 近江堅一、林 堯夫、大久保 篤、岩野邦久、若月英司

1. 商工会議所へのアプローチ状況報告
2. 「一日無料診断」の千葉商工会議所会報への掲載について
3. 中小メーカーの真の活性化について



本部方針発表：新公益法人制度の対応は一般社団法人

平成 20 年 12 月 1 日に新公益法人制度がスタートし、日本経営士会は、収益事業も目的とすることができる一般社団法人への移行を申請し認可を得るのか、もしくは公益事業を目的とする公益社団法人への移行を申請し認定を受けるのかのどちらかを選択しなければならないことになっています。

平成 21 年度の第一回支部長会議が 10 月 16 日(金) 11:00 から 16:00、麹町の弘済会館で開催され、新公益法人制度における申請報告と、定款変更に向けた骨子(案)が理事から説明されました。提案された内容に基づいて意見交換ならびに審議が行われました。

この支部長会議で審議の概要は以下の通りです。なお、ここで出された意見は、今後の理事会で検討・審議され、改めて支部長に説明された後、会員に送達されることになっています。

(1) . 新公益法人制度に向けた結論

上田専務理事より平成 21 年 9 月 25 日の第 3 回定例理事会で審議・確認された移行申請の結論とその背景についての説明がありました。

結 論

「(特定非営利)一般社団法人」への移行を目指す。そのための新定款案の策定を進め、2010 年 6 月の定時総会に会員に提示し、2011 年定時総会にて特別決議を得て、2011 年度中に認可申請を行う。

上記理事会の結論について、支部長会議はこの提案を承認しました。

(2) . 新定款の骨子(案)、役員選出方法、支部組織の改組について

井上常務理事より上記に基づいて、次の諸項目の骨子(案)が説明されました。

項目内用は以下のとおりです。各項目の内容は省略します。

目的 事業 会員 会議 役員(理事の定数、理事の役割、監事の役割、役員の選出方法)
支部組織の改組

各支部長から上記の諸項目についていろいろな意見、質問が出ました。それらの意見の取扱いについては、今後、理事会で検討・審議され、改めて支部長、会員に報告されることになっています。

訃報

第13代千葉県会長、北関東支部長を歴任なさいました金子昭先生が、平成21年11月4日15時27分入院先の船橋市立医療センターで、ご逝去されました。享年82歳でした。

肺ガンの告知を受けても、なお精力的に活動し、講演をこなしてまいりましたが、最後まで自分の経験を後輩コンサルタントに伝えたいとの思いで企画した千葉支部のラスト講演会を前に力尽き、それもかなわぬ夢となりました。最期まで後輩コンサルタント、千葉支部会員に何ができるかを考え活動してきた金子先生の強い想いに頭がさがる思いです。

「葬式は盛大に送ってほしい。だから自分の金で生前葬がわりにパーティをしたい」との先生の言葉を受けて11月に企画した慰労会も、金子先生を偲ぶ会として開催させていただきました。

金子先生の経営士会、千葉支部に対する強い思いがこもった文章が千葉県会50周年誌に寄稿されております。ここにその一部を再録させていただきます。



私が(社)日本経営士会に入会致しましたのが、1984年6月、この年は当時千葉支会と称されておりましたが、30周年記念式典を千葉ステーション会館において、第9代青山静雄支会長によって、沼田千葉県知事ほか来賓をお迎えし挙行されました。この時初めて会員として行事に参加致しましたのを思い出します。その後、総会以外はほとんど出席せず数年が過ぎ、1988年(社)千葉県能率協会の理事に就任と同時に、当時10代の県会長赤塚盛彦先生よりお電話を戴き、県会役員を懇請されたのをきっかけに県会活動に積極的に参加し今日に及んでおります。

赤塚先生主導の公開講演会「房総新時代における経営環境」、観光産業診断技法研究会。11代県会長石渡善紹先生の「戦略研究会」。12代県会長の宇賀田登茂男先生の時代の40周年記念誌発行、第29回全国研究会議。そして、1998年5月、13代を私が引継ぎ同時に北関東支部副支部長就任。当初3年間は定款改正に伴い、準会員から正会員への移行問題が大きな課題でありました。移行については、1類(74時間研修)、2類(論文・面接)、3類(面接)とあり、直ちに準会員移行委員会を設置、2000年6月12日から8月22日にかけて12日間74時間にわたり、8名の講師によって1類研修を実施、受講者9名。また、当時の原副会長とともに面接した会員数3年で45名でありました。

県会長時代の思い出としては、2000年4月24日(土)北総地区研究会会長 染谷文夫会員主導による公開講演会「ストレス対策と心の健康」講師久保田浩也氏。また、当時本部の意向は、外部志向の高まりとともに産業支援センター構想(後に経営支援センター)が打ち出され、千葉県会としては、組織活性化”社会貢献・支援活動”として「人材能力開発支援プログラム」構想など役員が真剣に検討したがついに実らず。また、原副会長とともに(社)千葉県経営者協会を再三訪問した甲斐があって、2002年12月14日当時の専務理事石崎輝夫氏より次のような要請を受けました。「地域高齢者能力活用職域開発支援事業」のコーディネーター1名。並びに「教育研究部会」のアドバイザー1名。よって原副会長と検討した結果、染谷文夫会員と佐藤光生会員を推薦し、好影響をもたらすなど、各役員が雇用能力開発機構や商工会議所等に足繁く通い、知名度向上にご協力戴いたことが心に残ります。

2001年4月15日は、私の忘れられない日である。「千吉良明義北関東支部長急逝」、当時副支部長でありかつ選挙管理委員であったが、諸般の事情を考慮し千葉県会の役員の方々の了承のもとに、やむなく支部長を立候補せざるを得ませんでした。支部と県会との融合という課題に対して、どう対処するのか?苦難の道が始まりました。ただ、幸いにも今期は千葉県会から現会長の原弘行さんに常任幹事、鶴岡義明さんに幹事、保科秀雄さんに監事をお願いし、他県の優秀な人達に要職をお願いし、なんとか責務を全うしたいと願っている次第です。

偉大な先輩を亡くしたことは大変残念ですが、金子先生の思いをつないでいくことが、残されたわたしたちコンサルタントを志すものの使命であります。金子先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

農業・観光研究会活動の報告

農業・観光研究会 事務局担当
西村 豊

新年度の活動の目玉として設立された農業・観光研究会につきまして活動の概要を報告いたします。

農業・観光研究会

< 目的 >

観光立県千葉の実現に向け、千葉県農林漁業の地域特性を生かした観光産業活性化に貢献することを目的とする。

< 事業 >

- ・農林漁業を観光資源として捉え、事業化に繋がる観光企画の研究開発。
- ・農業経営へのコンサルティング活動を通じ、千葉ブランドの食材の開発、販路開拓。
- ・観光庁、関連機関、関連団体との連携交流による地域振興活動。

(1) . キックオフミーティング

平成 21 年 6 月 2 日(火) 18:00~20:00

場 所 市川情報プラザ

- ・活動の目的、方向性説明
- ・日本の農業の実態
- ・新農業基本法について
- ・農業法人とは
- ・千葉県における農業経営支援制度

ようやく、スタートを切ることが出来たという感じです。

農業に関してはほぼ全員が素人の集団であるため、丸腰では戦えないことから少なくともまずは実態から探ろうと、概況を把握できる資料を取り揃え、素人同士の勉強会から始めました。

(2) . 第 2 回ミーティング

平成 21 年 7 月 6 日(火) 18:30~20:00

場 所 市川情報プラザ

- ・農業のテーマは大変広範囲なため、活動自体絞り込みが必要であること
 - ・活動目的と顧客ターゲットを明確に設定しなければならないこと
 - ・メンバーの専門分野等を考慮したうえで、チーム作りを行うこと
- ターゲット : 「農業生産法人・個人」
活動の軸 : 「販路開拓支援」「法人化経営支援」「就農支援」

(意見交換)

活動のアイデア

アグリトップランナーの育成 (年商 3000 万以上の企業経営体農家)

千葉県農林水産部担い手支援課へのアプローチ

- ・市場創造研究所 (2008 年委託企業)
- ・接客技術指導、マーケティング指導を通じてイニシアチブを取る。

観光との結びつきを探る

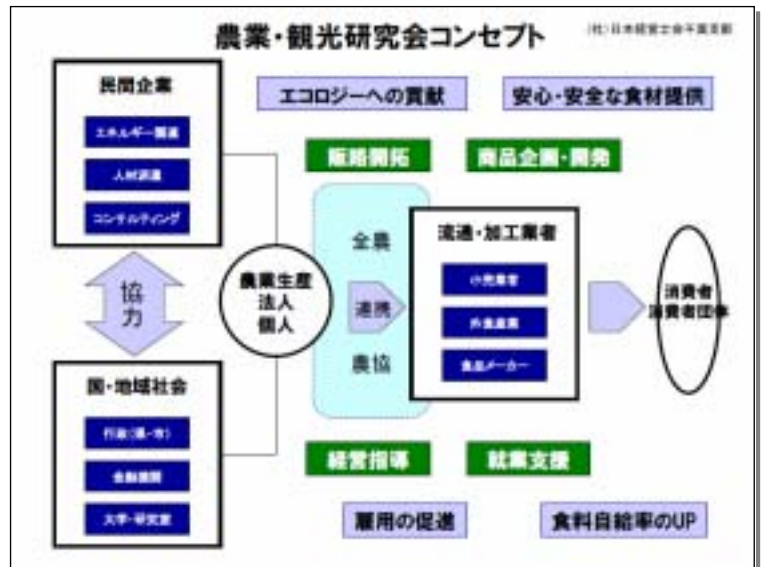
- ・コメ、すいか、ピーナッツ等、みちの駅、産地直売、生の作物、試食

地域おこし・まちおこしスタイルで

あるものをどう組み合わせるか

障害者雇用の促進 (社会貢献)

外国人労働者雇用のすすめ



b) ビジネスチャンス

フードマーチャндаイジングの研究

- ・料亭からのオファー
- ・農場からの産直で有機野菜が欲しい
- ・植物工場での栽培 (個性を持った野菜の供給)

商工連携 (農・商) をすすめる

(ア) ターゲットの絞込み 「利用する人は誰か」

(イ) 農とのパイプ作り

(ウ) 日本経営士会会員ネットワークを活用

(エ) 産学連携

(オ) 植物工場

パソナとの連携

(ア) 関東雇用創出機構

(イ) ふるさと応援隊

「就業支援研究会」は当面ターゲットを農業関連に絞り、「農業・観光研究会」の1チームとして活動を始めることとする。活動が軌道にのれば、ターゲットの幅を広げ、他の業種にも拡大していく事を検討する。

(3) . 第3回ミーティング

平成 21 年 8 月 4 日(火) 18 : 30 ~ 20 : 00

場 所 市川情報プラザ

(意見交換)

農商工連携で売れるものを作る 中小企業の活かに

- ・米作り + 酒販 (経営者協会)
- ・産直 + (販路開拓、商品企画)

経済産業省の予算は150億、農業抱え込み

- ・ これからの活動として民間の動きが重要。
- ・ 具体的なビジネスモデルを作る（まちおこし）
- ・ 中小企業、農家が求めているニーズを捉える
- ・ 行政が考えている程、農家は困っていない
- ・ 農家をその気にさせる手法を考えるべき
- ・ 担い手支援課（千葉県庁農林水産部）へのアプローチ
- ・ 掘り起こし活動 全国で成功している「まちおこし」
- ・ 農業改良普及センター指導員（役人は何を考えているか）

エンドユーザーのニーズを掴む

- ・ 食材の美味しさを活かした料理方法の提供
 - ・ 日本人の味覚、消費者ニーズの探求
- 目標は日本の食料自給率を50%に上げる

(4) . 第4回ミーティング

平成21年9月14日(火) 18:30~20:00

場 所 市川情報プラザ

- ・ 千葉県農林水産部担い手支援課訪問の報告

(意見交換)

- 1.千葉県農林水産部担い手支援課の委託事業である、「アグリトップランナー育成サポート事業」につきましては、多くの皆さんより「行ける」という力強いご意見を頂きました。来年の公募には、日本経営士会千葉支部として「農業・観光研究会」のメンバーで是非チャレンジしましょう。その為の準備に入ります。
- 2.観光を軸とした「商品企画開発」のチームにつきましては、山田リーダーの元、当研究会事業の柱の一つとして確立をお願いしたいと考えます。研究会としての活動の幅を広げておくことは、ターゲット顧客から見ると、他の団体との差別化の要素となります。(反対に活動を絞れというご意見もありましたが、私はそういう考え方です)
- 3.農業法人・個人への経営支援につきましては高野リーダーを中心として、6月に月例研修会にてご講演いただいた内容をチームメンバーが再現(農業経営支援セミナーの講師として)出来るよう、準備を進めながら、高野さんご自身のクライアントをひとつご紹介頂き、現場見学(ヒアリング)からまずトライしてみたいと思います。そして、千葉県への入札前に日本経営士会千葉支部独自に、どこかで「農業経営支援セミナー」の開催をすることを当面の目標として置きたいと考えます。
- 4.販路開拓につきましては、千葉リーダーのご意見を尊重し、情報収集に更に力を入れる所存です。先日(9月30日)に新見さん、五十嵐さんの御支援の下パソナさん、関東雇用創出機構さんを訪問し、「パソナグループふるさと応援事業」のお話を聞かせて頂きました。我々研究会の中で位置付ける「販路開拓」事業にパソナさんの事業を旨く活用することが目的でした。結果、社団法人日本経営士会千葉支部として、応援隊としての営業・販売の委託契約が可能であるとの内諾を頂きました。詳しくは10月13日(火)の研究会にパソナドゥータンクの五十嵐顧問にて説明して頂く予定であります。

- 5.最後に就農支援事業ですが、元々この事業は農業に拘らず、「就業支援研究会」とし阿部さんの主宰で、別個の研究会として立ち上げる予定でしたが、方向が定まらず当面「農業・観光研究会」の中の一事業として捉え、軌道に乗ったら独立をと考えております。リーダーを大塚さんをお願いしておりますが、大塚さんもお忙しく、リーダーの交代を要求されております。(軌道にのるまで継続をお願いしました) しかしながら、この柱は農業ビジネス支援活動の中でも最もベーシックなものとして、どんな場面においても必ず必要なものである事から、私としては残しておき、もう少し時間をかけて議論していきたいと考えます。
- 6.入札への対策について、別途横断的なプロジェクト形式でのチームが必要となります。メンバーは兼務となりますが、バイオの斎藤さん、ITの井形さんにも参画して頂き、野菜工場(植物工場)やトレサビリティ等、情報収集も含めて活動して参りたいと考えております。

チーム作りについては、以下の体制で走りたいと考える。

あくまで、研究会であり会社組織ではない。個人負担の会費も無く、入退会も自由。

(体制)

(社)日本経営士会千葉支部



(5) . 第 5 回ミーティング

平成 21 年 10 月 13 日(火) 18 : 30 ~ 20 : 00

場 所 市川情報プラザ

株式会社パソナドゥタンク 顧問 REP 事業部 五十嵐さん より

1. 農林漁業ビジネス経営塾(農林水産省補助事業)への講師登録のお勧め
2. 「ふるさと応援事業」への登録参加

パソナで取り組む「ふるさと応援事業」に(社)日本経営士会千葉支部として、委託契約を行うことにより、東京進出希望の地方立地企業(特に農業事業者、農産物加工事業者等)の販売先(企業・個人)の紹介を行うことで、販売額の8~10%のキックバックを頂ける制度に参加することで、「農業・観光研究会」の販路開拓チームにおける活動のきっかけ作りとする。

3. シニア事業部 REP 制度(関東雇用創出機構)への登録のお勧め

(6) . 第6回ミーティング

平成21年11月10日(火) 18:30~20:00

場 所 市川情報プラザ

- ・ パソナ農林業ビジネス経営塾講師登録について
希望者の方には申込書をお送りします。
- ・ 農地見学会
11月29日(日) AM9:40 白井市役所駐車場集合(雨天決行)
訪問先: 白井市の「梨生産組合 組合長 秋本享志(みちゆき)氏 = 白井市議会議員」
- ・ 農産物直売所 みずほの村市場 下見報告 (上條さん)
- ・ 商品企画開発グループの活動方針(山田さん)
- ・ 「ちば農業未来塾」参加報告 (新見さん)

3 支部連携研修会のご案内

「ゲーム理論」とは、産業カウンセラーと経営士活動をされている大先輩の間敏幸先生(前南関東支部長)が開発された理論です。この理論の解説と実務における応用例として、経営支援には、人的対応のあり方を踏まえた解説をいただき、研修が欠かせませんので、に独自理論をのした「ゲーム理論」の活用法解説研修会を次の通り、開催いたします。

研修会後に、各地域において、実施されている経営支援の実践事例についての意見交換を行いますので、併せてご案内申し上げます。

申し込みは、各支部長か県会長へメールに、お願いいたします。

1. 日 時: 平成21年12月5日(土) 13:10 受付 会 13:30~15:00

「カウンセリング・ポイント研修会」 講師・石黒 芳樹先生、顧問・間敏幸先生

2. 場 所: 埼玉県労働会館 3階会議室 会費 500円

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-24-13 TEL 048-832-2151

アクセス: JR北浦和駅西口 徒歩5分

<http://www.rokan.jp/outline/index.html>

3. 研修会後の情報交換会

経営支援会 15:15~16:30

各地域の経営支援事例情報交換

4. 全国研報告 16:30~17:00

3支部担当が考える魅力づくりの情報交換会

5. お申し込みは、

実行推進委員 北関東支部 皆川勝弘 (FZN01023@nifty.com)



研修、研究会実施のお知らせ

月例研修会のご案内

1 月度

日 時 平成 22 年 1 月 3 0 日(土) 15:00 ~ 17:00

場 所 船橋中央公民館 第 8 集会室

テーマ 法的整理に頼らない事業再生のすすめ

講 師 千葉 道生 会員 他

不況期に青息吐息となっている中小企業に、いかに法的整理に頼らずに事業再生を果たすか、そのノウハウを伝えます。

2 月度

日 時 平成 22 年 2 月 2 7 日(土) 15:00 ~ 17:00

場 所 船橋中央公民館

テーマ 環境問題の原点及び環境と経営の融合(仮題)

講 師 林 久雄 会員 他

環境問題の専門家、林 会員が環境問題と経営をいかに融合させるかを解説します。ご期待ください。

3 月度

日 時 平成 22 年 3 月 2 7 日(土) 時間未定

テーマ：各研究会の報告を予定しています。

講師・場所 未定(決定し次第ホームページにて掲載いたします)

月例研修会 / 懇親会(12 月) 出席連絡

(社)日本経営士会 千葉支部

総務担当 鈴木 伸一 宛

Tel : 090 - 5446 - 2808

会員氏名 _____

Fax : 04 - 7133 - 1303 出席ご希望の方は 12月15日までにご連絡願います。

出席を次の通り連絡します。(該当欄に出席は○印、欠席は×印をご記入下さい。)

	研修会 / 講演会	懇 親 会
平成 21 年 1 2 月 1 9 日 出席	参加・不参加	参加・不参加
月例 / 懇親会		

会場などの急な変更は県会ホームページにてお知らせしています。各研修会に出席する際は、ホームページをご確認の上ご来場ください。 千葉県会ホームページ <http://www.keieishi-chiba.org/>